

### 3. 単元計画（全5時間）

| ステップ | 学習活動   | 時           |
|------|--|-------------|
| 経験   | ○《まめがら》の学習経験を思い出し、歌って遊び、豆をいる。<br>○お箏で《まめがら》の旋律を弾く。<br>○お箏を触り、音探究をし、見つけた音を交流する。<br>○《まめがら》に見つけた音をいれて演奏し、奏法による感じの違いに気づく。 | 第1時<br>第2時  |
| 分析   | ○異なる奏法による音色を知覚・感受し、イメージを表現する工夫への手がかりを得る。   | 第3時         |
| 再経験  | ○イメージを表現する工夫への手がかりを基に、お箏の奏法による音色を意識し、イメージに合うようにペアで《まめがら》の音楽をつくる。   | 第4時<br>(本時) |
| 評価   | ○ペアごとに発表し、アセスメントシートに答える。   | 第5時         |

### 4. 本時の目標

○イメージを表現する工夫への手がかりを基に、お箏の奏法による音色を意識し、イメージに合うようにペアで《まめがら》の音楽をつくる。

### 5. 本時の展開（本時は4／5時間）

| 活動のねらい  | 子どもの活動  | 指導者の活動  | 評価                              |
|---|---|---|---------------------------------|
| <b>再経験</b>                                    | ○イメージを表現する工夫への手がかりを基に、お箏の奏法による音色を意識し、イメージに合うようにペアで《まめがら》の音楽をつくる。  |   |                                 |
| ◆お箏の奏法による音色を意識して、表現を工夫しながらペアで《まめがら》の音楽をつくらせる。 | 1. お箏の奏法による音色を意識して、自分たちのイメージが伝わるように表現の工夫を考え、ペアで《まめがら》の音楽をつくる。<br><br>いきなり強火にかけて豆がはじけているイメージを伝えたいな。しっかり弾きよりもピッチカートではねている感じでひこうかな。<br><br>ひっかけ弾きとしっかり弾きを合わせて弾くと違う大きさの豆がはねている感じがしたな。強弱にもちがいをだそうかな。 | ●お箏の奏法による音色を意識して、ペアで《まめがら》の音楽をつくることを伝え、「お箏を鳴らしていろいろな奏法による音色を試しながら、どんな豆や鍋の様子を表したいか考えてつくりましょう。」と音を鳴らしながらつくるように促す。<br><br>●適宜、自分たちのイメージが伝わるように演奏の工夫を考え、試すように声をかける。 | ★観点1-②<br>(観察)<br>観点2-②<br>(観察) |
| ◆他のペアの中間発表を聴き、新たな表現の工夫の手がかりを得させる。             | 2. 中間発表をする。   | ●発表するペアには、考えた工夫やイメージを言語化させる。<br>●聴き手には、発表を聴いて気付いたことやイメージした豆や鍋の様子について述べさせる。  |                                 |

|  |  |  |                            |
|--|--|--|----------------------------|
| <p>◆再度ペアで、お箏の奏法による音色を意識して、音楽表現の工夫をさせる。</p> | <p>3. 再度ペアで、お箏の奏法による音色を意識して表現の工夫を考え、つくった音楽の「イメージ」と「工夫」をペアのワークシートに書く。</p> | <p>●次の時間に、ペアごとに演奏を発表して交流することを伝え、自分たちのイメージを聴き手に伝えるにはどのように工夫すればよいかを考えさせ、練習させる。</p> <p>●ペアのワークシートを配り、つくった音楽の「イメージ」と「工夫」を書き込ませる。</p> | <p>観点 2-②<br/>(ワークシート)</p> |
|--|--|--|----------------------------|

※本案は、次の指導案を参考に作成している。

- ・小島律子著(2015)『義務教育 9年間の和楽器合奏プログラム』椿本恵子氏の実践 pp52-54、黎明書房
- ・小島律子編著(2015)『音楽科 授業の理論と実践』楠井晴子氏の実践 pp228-236、あいり出版
- ・小島律子編著(2015)『音楽科 授業の理論と実践』大和賛氏の実践 pp168-174、あいり出版